

製品名: リン酸化STAT1 (Y701) (3W10) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe06018**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	87kDa

抗原情報

遺伝子名	STAT1
別名	CANDF7; ISGF 3; Signal transducer and activator of transcription 1; Stat1; STAT91; Transcription factor ISGF-3 components p91/p84;
遺伝子 ID	6772.0
SwissProt ID	P42224
免疫原	ヒト STAT1 の Tyr701 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

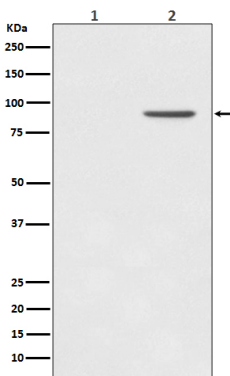
背景

Stat1 転写因子は、多数のリガンドに応答して活性化され、IFN- α および IFN- γ への応答に不可欠です。Stat1 タンパク質は、Stat1 α (91 kDa) とスプライスバリエント Stat1 β (84 kDa) のペアのアイソフォームとして存在します。ほとんどの細胞では、両方のアイソフォームが IFN- α によって活性化されますが、IFN- γ によって活性化されるのは Stat1 α のみです。Stat1 の不適切な活性化は、多くの腫瘍で発生します。インターフェロン (IFN)、サイトカイン KITLG/SCF、その他のサイトカイン、およびその他の成長因子に対する細胞応答を媒介するシグナル伝達および転写活性化因子。I 型 IFN (IFN- α および IFN- β) が細胞表面受容体に結合した後、タンパク質キナーゼを介したシグナル伝達により、Jak キナーゼ (TYK2 および JAK1) が活性化され、STAT1 および STAT2 のチロシンリン酸化が起こります。リン酸化 STAT は二量体を形成し、ISGF3G/IRF-9 と会合して ISGF3 転写因子と呼ばれる複合体を形成し、核内に移行します (PubMed:28753426)。ISGF3 は IFN 刺激応答配列 (ISRE) に結合し、IFN 刺激遺伝子 (ISG) の転写を活性化します。これにより、細胞は抗ウイルス状態に誘導されます。II 型 IFN (IFN- γ) に応答して、STAT1 はチロシンおよびセリンがリン酸化されます (PubMed:26479788)。その後、STAT1 は IFN- γ 活性化因子 (GAF) と呼ばれるホモ二量体を形成し、核内に移行して IFN- γ 活性化配列 (GAS) に結合し、標的遺伝子の発現を誘導することで、細胞を抗ウイルス状態に誘導します。KITLG/SCF および KIT シグナル伝達に応答して活性化されます。活性化された FGFR1、FGFR2、FGFR3、FGFR4 に対する細胞応答を媒介する可能性があります。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



(1) A431 細胞溶解物、(2) EGF 処理した A431 溶解細胞における Phospho-STAT1 (Y701)発現のウエスタンブロット解析。